

景況レポート

(5月分・情報連絡員80名)

大型連休での操業度低下から

業況DI値は大きく後退

【概況(全体)】

5月分の県内景況は、前年同月と比較して景況が「好転」したとする向きが10.0%(前回調査7.5%)、「悪化」が40.0%(同28.8%)で、業界全体のDI値は-30.0となり、前月調査と比較し8.7ポイント下回った。

全国及び東北・北海道ブロックとの比較では、非製造業で全国及び東北・北海道ブロックを上回っているものの製造業で景況感が大きく後退したことから、全体の景況DI値についても低い水準での推移となった。

【業界別の状況】

好調であった鉄鋼・金属が不変・悪化に転じ、また、木材・木製品でも悪化割合が増加した。一部の小売業で好転に転じてはいるが、大型連休での操業度の低下から、売上が伸びず全体のDI値を引き下げる要因となった。今後も原材料及び燃料価格の上昇による経営コストの増加も見込まれており、利益率への影響も懸念される。また、消費税や働き方改革への対応を憂慮する声も多く、中小企業の先行きは引き続き慎重に注視していく必要がある。

<全国及び東北・北海道ブロックとの景況DI値の比較>

	秋田県	全国	東北・北海道
全体	-30.0	-26.1	-25.8
製造業	-43.7	-30.6	-31.9
非製造業	-20.8	-22.8	-22.4

<景況天気図>

項目	業界の景況	売上高	収益状況	販売価格	取引条件	資金繰り	雇用人員
製造業							
非製造業							

【凡例】

快晴 30以上
 晴れ 10以上 30未満
 くもり △10以上 △30超 10未満
 雨 △30超 △10未満
 雷雨 △30以下

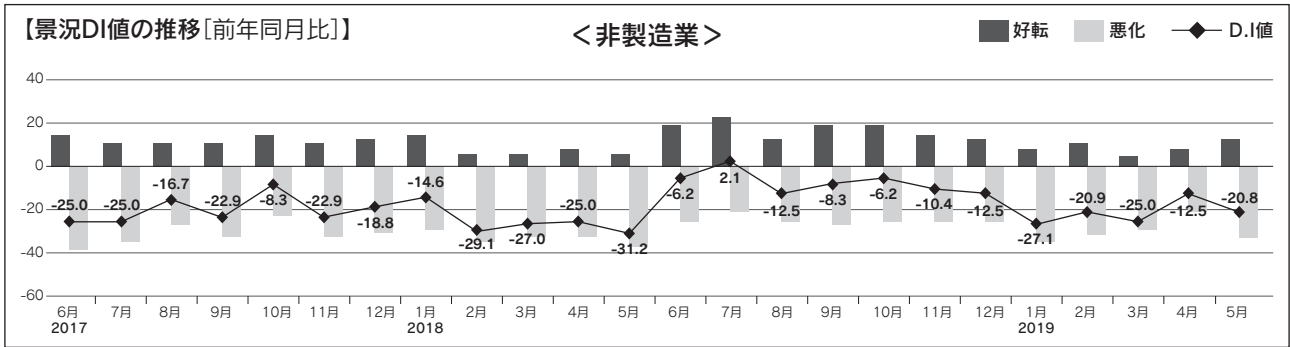
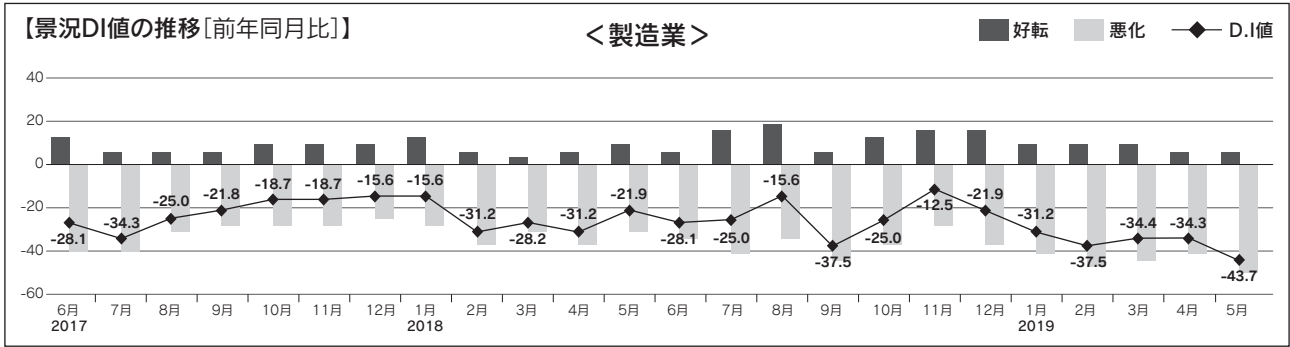
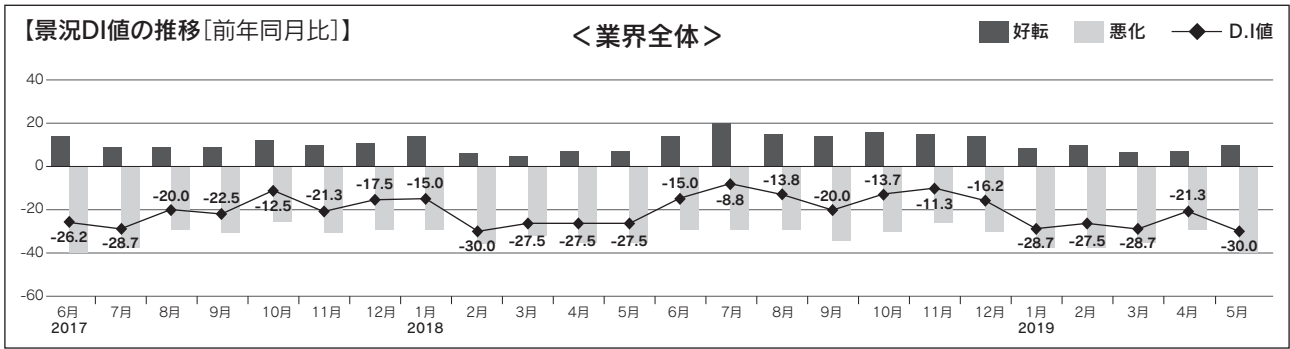
【天気図の見方】
前年同月のDI値をもとに作成しています。

※DI値とは、Diffusion Index(ディフュージョン・インデックス)の略で、増加(好転)したとする企業割合から、減少(悪化)したとする企業割合を差し引いた値です。

【業界の声】 ~製造業~

(回答数：32名 回答率：100%)

食料品 (パン)	高温に弱いパン・菓子業界は気温の上昇とともに売上が減少している。原材料の値上げも続いており、ダブルパンチ状態となっている。
食料品 (菓子)	今年のGWは長い連休となり、観光地・駅など人出も多く、動きは活発でお土産の売上は好調であったが、それ以外の各個店の売上は芳しくなかった。
繊維工業 (ニット)	前年並みの受注状況に落ち着いてきた。GW商戦も長い割には例年並みで終わり、追加生産の動きはあまりなかった。
繊維工業 (繊維)	工賃の安い商品が続き、定番で工程には慣れてはいるものの思うように生産数が伸びなかった。
木材・木製品 (一般製材)	大型連休で生産時間が不足し、操業度が低下したことで出荷量は減少した。
木材・木製品 (外材)	連休後には増税前の駆け込み需要が始まるとの期待感も出ていたが、針葉樹合板の品薄感はなく落ち着いている。メーカーでは、針葉樹合板の在庫の確保に努めているが、市中の荷動きは精彩を欠いており、メーカーと流通に温度差が出てきている。
印刷	10連休のため、納期調整、用紙の確保など負担も増えた。用紙の品薄から受注対応も厳しくなっている。
窯業・土石製品 (生コンクリート)	5月の出荷数量は前年同月比88.0%と大幅に低い数字となった。大館市役所、県南地区の災害復旧工事で全体の数量をカバーしているが、ここ数ヶ月厳しい数字が続くと思われる。
鉄鋼・金属 (機械金属)	5月半ばより受注が増え、見積依頼も各社とも増加している。ただ、公共事業は未だに鈍いようで6月以降の動きに期待している状況である。
一般機器 (金属加工)	受注面では前年を下回り、先行きについても明るさが見えない。少ない受注の上に短納期の物品が多く、厳しい環境にある。材料価格についても米中の関税問題等もあり、上昇の懸念が出てきている。



【業界の声】 ~非製造業~

(回答数：48名 回答率：100%)

卸売業 (米 麦 卸) 平成30年産米の主食用米の販売進捗率は74%となり、順調な販売となった。令和元年産米の生産者との契約も取りまとめが終わり、平成30年産米から微量の減少となったが、大幅な変動はなかった。

小売業 (電機) 各店ともエアコン販売が好調で前年同月比115%と売上が伸びた。

小売業 (共同店舗) 全体では前年同月と変わらないが、10~15%売上が落ちている店舗が目立ち、天候の影響からか客数も若干落ちている。

商店街 農繁期に入り、ますます通行量が減少しており売上についても減少している。(鹿角市)
新元号となり、商店街のムードが一新されたように見受けられたが、大幅な売上増とまでは結びついていないようである。コスト削減も限界まできており、従業員の時短を家族従業員で賄うなど人件費圧縮等に対応している。(湯沢市)

サービス業 (タクシー) 好天続きで利用者が少なかったことと乗務員の減少による稼働の低下から悪化の傾向にある。

サービス業 (旅館) 5月は大型連休や修学旅行等の入れ込みで順調に推移した。

建設業 (管工事) 工事が減少しており、公共工事の早期発注に期待している。また、人手不足は解消されていない状況にある。(県北地区)

建設業 (電気工事) 大きな物件も無く、動きは鈍い。住宅着工件数は増えてはいるものの、材料等はハウスメーカー主導のため、収益率は悪い。(中央地区)

運輸業 (トラック) 輸送状況は連休が長かった影響で、貨物の動きは悪かった。売上・収益ともに前月比では横ばいであり、前年同月比では多少増加している。(県南地区)